

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4095500072		
法人名	株式会社 友愛会		
事業所名	グループホーム友愛		
所在地	福岡県宮若市宮田191番地の6		
自己評価作成日	令和2年1月19日	評価結果確定日	令和2年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームが一つの家族と考え、利用者とともに生活し一人一人の尊厳を大切にして、その人たちに合ったケアを心掛けて、家族や地域の方々のご協力を頂きながら運営に努めている。
心身機能活性的にラジオ体操や心身体操を毎日行っている。
個々の希望に添う様に、外出支援やレクリエーションは積極的にしている。
季節毎のイベントやお誕生会には、ご家族を招待し利用者と一緒に過ごす環境作りに努めている。
利用者・ご家族とのコミュニケーションを充分に取り、明るく開かれたグループホームを目指して活動し来苑しやすいホーム、安心して任せられるホームであり続けたい。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズン
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和2年2月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人とホームの理念を並べて掲げ、理念の具現化に取り組んでいる。個性のある具体的な介護計画を全職員で共有し、入居時車椅子だった入居者が手引き歩行でトイレに行けるようになったり、昨年は医療との連携や家族の付き添いで1名の方を看取っている。また、家族から懇願されて介護衣を1ヶ月間試用しているが、適正化について話し合い介護衣の使用を中止している。適切な排便コントロールで入居者は笑顔が増えて他の入居者と談笑されるまでになっている。運営推進会議は家族会と同日に開催され、家族や地域代表などの多彩なメンバーの参加で、身体拘束に関する質問や様々な詐欺や事件など注意を促す情報の提供など、活発な討議が行われている。保育園児との七夕の飾り付けや山笠の巡行、盆踊り、稚児参りは恒例となり、家族や地域の方々の理解や協力を得ながら、地域包括ケアの推進が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホーム友愛**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念を唱和してスタッフ全員で共有している。開かれたグループホームを目指し地域の方々と関りを大切にして、入居者が安心して暮らせる様に努めている。	厨房カウンターの頭上に運営法人とホームの理念を並べて掲げ、法人理念を毎朝唱和している。地域密着型サービスの事業所として家族や地域の人々と協力して、理念の具現化に取り組んでいる。	地域密着したサービスを謳ったホーム理念を、ミーティングなどで共有し、さらなる実践を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	七夕には保育園児たちと飾りを飾ったり、夏は山笠や盆踊りでホームに来て頂き、冬は餅つきに自治会・警察・消防など多数参加して頂いて地域住民との交流を図っている。	日頃からボランティアの来訪や野菜の差し入れがあり、保育園児との七夕の飾り付けや山笠の巡行、盆踊り、稚児参りが継続している。ホームで育てた朝顔の鉢植えを保育園や近隣の方に配っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一回の運営推進会議の実施や、地域のボランティア・保育園などとの交流をしながら理解を深め支援して頂ける関係作りに努めている。また、廃品回収なども積極的に協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、運営推進会議を実施して現状を報告し、様々なアドバイスを頂いてサービスの向上に役立っている。	家族や地域代表、警察署や消防署の職員などの多彩なメンバーの参加で定期的開催されている。身体拘束についての質問や、様々な詐欺や事件など注意を促す情報の提供など活発な討議が行われ、議事録は玄関で公表されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所・消防署・警察の担当者や民生委員に出席して頂き、協力関係を密にしている。	地域包括支援センターからは入居の相談や空き情報の問い合わせ等があり、地域や介護サービスに関する情報の提供や連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の尊厳と主体性を尊重し、拘束を安易に正当化することなく、スタッフ一人ひとりが身体的・精神的弊害を理解し、拘束廃止に向けた意識を持って、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	身体拘束に関する研修を実施している。昨年、家族から懇願されて介護衣を1ヶ月試用しているが、適正化について話し合い、介護衣の使用を中止している。適切な排便コントロールの取り組みで、入居者は笑顔が増えて他の入居者と談笑されるまでになり、家族からも感謝されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の尊厳を尊重し、内外の研修などを通して高齢者虐待防止について学ぶ機会を作り、高齢者虐待をしないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングや研修などで権利擁護・成年後見制度について学ぶ機会を作っている。日々の生活の中でも必要性が有れば話し合いをして支援している。	外部や法人内の年間研修計画に組まれた権利擁護の研修を実施している。成年後見制度や日常生活自立支援事業のパンフレットを整備し、玄関に掲示している。現在まで制度の利用はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族が理解し納得できる様に十分な説明を行って契約している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や運営推進会議(家族会)の実施、また家族の来所時に意見・要望を聞く様にして運営に反映させている。	運営推進会議と同日に開催している家族会には、毎回3,4家族の参加がある。毎日食事介助に来訪される家族もあり、来所時や入居者の写真付きのホーム便りで日頃の暮らしぶりを報告し、意見の表出の機会としている。	定期的に家族会が開催されているので、家族だけで話し合われる機会を設け、家族会としての意見の表出を期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼やミーティングで意見交換や情報の共有をして運営に反映させている。	職員の提案で、月1回のミーティングを職員が集まりやすい平日の昼間に試行したり、ホットプレートなどが購入されるなど、率直な意見交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長が朝礼やミーティングに参加してスタッフ個々の勤務状況を把握している。資格取得や研修参加などは積極的かつ柔軟に対応している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	スタッフの募集・採用に当たっては、面接時に十分説明し採用する様にしている。能力や特技が活かせる様に配慮し、適材適所で仕事ができる様にして。休日取得も事前に希望を聞いて対応し権利保障に留意している。	口コミでの面接・採用が多く、30代から70代の職員が就労している。管理者は、各々の体力や希望に合わせた勤務形態で離職防止に努め、夜間専従職員と情報の共有に配慮している。外部研修の機会や資格取得も奨励し、向上心を持って働ける職場づくりに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝礼やミーティング・研修などを通して人権教育啓発活動に取り組んでいる。	参加している地域同業者協議会のGHみやわかや法人内の年間研修計画に沿って、人権研修を実施している。又、行政主催のふれあいコンサート等にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や研修参加など積極的かつ柔軟に対応し、スタッフ個々のスキルアップを図っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎月、GHみやわか(地域のグループホームの集まり)に参加し各種研修や実践報告などを通じて、お互いのサービスの質を向上させている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時は利用者に特に注意深く声掛け傾聴し、不安を取り除く関係づくりに努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時に家族とのコミュニケーションを密に取り、不安な事や要望を聞いて信頼関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時にグループホームの特徴などを説明し、本人や家族との話し合いの中で、要望を聞いて必要としている支援を見極め対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自身で出来る事は自身ですて頂ける様に声掛けし、スタッフと共に暮らし成長していける関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に利用者を支援し、出来るだけ多くの事に参加して頂くように声掛けし、利用者と一緒に支えていくと言う想いを共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族への聞き取りを行い馴染みの商店や美容院などにスタッフが送迎し外出支援を積極的に行っている。	ホーム近く的美容院に通ったり、馴染みの美容院に送迎したり、外出が困難になり訪問美容を受けたりしている。花火大会の日に友人が迎えに来て、一緒に花火を見物する入居者もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、趣味・嗜好がうまく噛み合えるように支援している。また、生活リハビリやレクリエーションなども利用者同士が声を掛け合い一緒に行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。(病院へのお見舞いなど)	サービス利用(契約)が終了した後も、本人・家族のその後の経過をフォローし、相談や支援に努めている。(病院へのお見舞いなど)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の思いや意向を把握し良く面談をして出来る限り本人の希望に添う様に努力している。	暮らしの中で、把握した思いをミーティングで共有している。子供のころから叱られたことばかりと話していた入居者から「ここに居ていい」と尋ねられ、「いいですよ。居てください」と応じている。笑顔がみられるようになり、他の入居者とも談笑されるようになっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族と良く面談をして、これまでの生活環境やサービス利用の経過等の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中から利用者一人ひとりの生活状況を把握・分析している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに主担当を決め、日々のケアの中で、他のスタッフ・家族・必要な関係者と情報交換をし合いながら、現状に即した介護計画を立てている。	毎月、担当職員が実施したモニタリングを全職員で話し合い、介護計画の見直しにつなげている。個別性のある具体的な介護計画を全職員で共有し、入居時は車椅子移動だった入居者が手引き歩行でトイレに行けるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの現状に即した介護計画を立て、日々のケアの中でスタッフ間で共有し、朝礼やミーティング等でフォローして、都度計画見直しを図っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やその家族に柔軟に対応し、様々なニーズに合ったサービスの提供を心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを招いたり、地域の行事に参加するなどして、豊かな暮らしを楽しめる様に支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の定期的な往診と、体調不良時にはその都度受診している。 かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、本人及び家族の意向に沿って、適切な医療が受けられる様に支援している。	協力病院へ受診希望がほとんどで、専門病院への受診は家族が同行を出来ない場合は、職員が同行することもある。週1回、看護師が健康チェックに訪れ、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問看護師との連絡を密にし、利用者が適切な看護を受けられる様に支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から病院関係者とは良好な関係作りに努め、入退院時には病院関係者との情報交換を密にして、安心して治療して頂ける様に支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期のあり方について十分に説明し、本人や家族の意思確認書を頂く様にしている。 医師や看護師に利用者の状況や要望を相談しながら支援している。	重度化や看取りの指針や同意書を整備している。昨年は医療との連携や家族の付き添いで1名の方を看取っているが、入居者の中に不穏になった方がおられた。今後は共に暮らす入居者の思いに配慮し、看取りのできる静養室などの整備を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに沿って、利用者の急変や事故に対応している。 職員全員で応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、共有化を図っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いの下、年2回の消防訓練を実施している。 昨今の異常気象を想定し、利用者が安全に避難できる方法と地域との協力体制を構築している	火災や地震などの自然災害、夜間想定避難訓練を実施している。水消火器訓練を行い、消防署での救急救命訓練に交代で参加している。緊急時マニュアルに入居者の連絡先を明記し、服薬情報を持ち出し書面として保管し、水やレトルトカレー、カップうどんなどを備蓄している。	運営推進会議に消防署からも出席されることから、家族や地域の方と共に参加できる避難訓練や救急救命研修などの企画を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を尊重しプライバシーの確保に努め、それぞれが安心して生活できる様に支援・対応を行っている。	日中は車椅子であるが、夜間は居室を這いまわられるためフロアマットに寝具だけにしたり、教師だった入居者には「先生」と呼びかけたり、個々に応じた環境整備や呼称で、入居者が笑顔で誇りを持って生活が送れるように配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が実現できる様に、常に本人の希望を傾聴し、出来る限りの支援をしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に添って出来る限りの支援をしながら、一人ひとりに合ったその人らしい暮らしを送れる様に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問散髪や行きつけの美容室送迎等の実施、一人ひとりの趣味・嗜好に合わせたおしゃれが出来る様に支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事の好みを把握し、献立作りの参考にしている。 出来る範囲で準備や後片付けを一緒に行っている。	ミキサーや刻み食も用意され、個々のペースで完食されている。訪問日は昼食はセリご飯、おやつはぜんざいで、季節感や入居者の好みに配慮して、旬の野菜をたくさん取り入れた献立を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録に残し、必要摂取量をバランス良く確保出来る様に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に合わせて口腔ケアを行っている。毎週金曜日には訪問歯科が来て口腔内の清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの能力に応じて出来る限りトイレ誘導して排泄出来る様に支援し、一人でも多くの利用者が布パンツをはいて頂ける様に努力している。	トイレ排泄を原則として時間誘導などを行っている。夜間のみポータブルトイレを使用される方もある。排便コントロールに全職員で取り組み、生活の質が大きく改善され笑顔になり話好きになった入居者もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分や食物繊維の多い食べ物の摂取を心掛け、ラジオ体操や心身体操などで体を動かし便秘予防に取り組んでいる		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者本人の体調や希望により柔軟に入浴対応している。週3回入浴が出来る様に支援している。	今日は体調が悪いからと入浴を断われた入居者も、ひと眠りすると入浴されている。無理強いすることなく、週3回を目途に清拭したり、立ち上がりができない方は、2名体制で支援することもある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、自由に居室で休息できる様支援し、安眠を阻害しない様に努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	普段からミーティング等で薬の摂取目的や副作用などを理解する様に徹底し、利用者一人ひとりの薬の管理・服薬支援を行い、症状の変化を観察し主治医と相談して都度対応している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの性格や嗜好を把握し、様々なレクリエーションを実施したり、生活リハビリを通じて、気分転換が出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・買い物・様々なイベントなど出来る限り本人の希望に添える様に外出支援を行っている。 年に1～2回は外食支援を行っている。	ひまわりやコスモス、ケイトウなど季節の花や鯉のぼりの見学、買い物、外食などに出かけたり、芋ほり大会や玉ねぎ植えなどの戸外行事を行ったり、近隣への散歩やドライブ等で、気分転換を図っている。外出のリスクも家族に説明し、同意を得ている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じて、外出時にお金を持たせ、お金を所持したり使えるように支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話や手紙のやり取りを支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が季節の移り変わりを感じられる様に装飾物を取替えて季節感の演出に工夫している。共用の空間は常に清潔を保ち、空調や防臭等に配慮している。 ホームは天井が高く開放感があり、太陽光を多く取り入れられる作りになっている。	玄関に季節のツバキが活けられ、天井が高く開放感のある共用空間は、壁に節分の鬼のお面が貼られ、外出時のスナップ写真や書初めが飾られている。全員の顔が見えるようにテーブルが配置され、空調管理され、掃除が行き届き、入居者同士で寛げる場所になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれがソファやカウンター・リビングのテーブルで自由に過ごせる様に工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者やその家族の意向を尊重して使い慣れた物や好みの物を活かして、居心地の良い空間づくりを行っている。	花柄のついた引き戸を開けると、籐の長椅子とタンスに夫が描いた絵を飾ったり、こじんまりした仏壇のある居室もあり、居心地よく過ごせるように支援している。中には、心身の状態によっては、安全に配慮して一切物を置いていない居室もある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者それぞれの能力に応じて自立支援や事故防止の見守りを実施し、廊下の手すり・夜間の足元灯などで、安全確保にも工夫している。		